



ほけんだより

令和7年8月1日
インターナショナル
不動前えほん保育園
看護師

長い梅雨が明け、夏本番ですね。暑い日が続きます。

水遊びを楽しむ子供たち！夏はプール熱などの感染症に要注意です。発熱やのどの痛み、目やになど様々な症状が考えられるため、体調の変化には十分に注意する必要があります。子どもたちの体調に不安のある方はコドモンに記載したり、送迎時に保育士や看護師にご相談ください。

保育園で症状がでた場合、状況によっては保護者の方へ連絡しお迎えをお願いすることがありますのでご了承ください。

とびひ

とびひは、夏の疲れが出る8月の終わりから9月ごろに多くなります。虫刺されの跡や傷に、菌が付いて発症することが多いです。「傷がじゅくじゅくしている」「なかなか傷が治らない」というのがとびひの始まりのサイン。やがてかゆみの強い水ぼうができます。これをかきこわした手でほかの所をかくと、そこにもとびひが広がります。

家庭での手当て

- ・じゅくじゅくした部分はガーゼで覆う。皮膚科で処方された薬があれば塗ってから、ガーゼで覆う
- ・お風呂では湯舟につからず、シャワーで洗い流して清潔を保つ
- ・湯上がりはこすらずふき取り、薬を塗る

主な症状

- ・皮膚に小指の爪くらいの水ができる
- ・水ぶくれや、赤じゅくじゅくした、ただれた状態になる
- ・強いかゆみがある



小さい子の食中毒にご注意を！

じめじめした梅雨から夏にかけては、食中毒が発生しやすい時期。食中毒の原因になる細菌が、活動しやすい湿度と気温がそろっているからです。食中毒になると、下痢、おう吐、腹痛などの症状を起こしますが、0、1、2歳くらいのころは、けいれんを起こしたり、意識がなくなったりすることもあります！重症化しやすいので、調理するときは必ず手を洗い、新鮮な食材を使いましょう。

「熱中症」の手当てについて

子どもたちが大好きな夏ですが、熱中症には注意を。子どもに異変があったら、すぐに手当てをして重症化を防ぎましょう。



①涼しい場所に移動する

風通しのよい日陰や涼しい室内に連れて寝かせ、服のボタンやベルトを外す。



②体を冷やす

ぬらしたタオルで体をふき、うちわや扇風機の風を当てて体にこもった熱を逃がす。



③水分を少しずつ与える

麦茶や子ども用のイオン飲料などをひと口ずつ与える。一度に飲ませず、様子を見ながら。

□冷やしたタオル

□タオルに包んだ保冷剤

□冷えた缶ジュース などを挟んで冷やすと効果的



39℃以上の発熱があり、ぐったりして意識がないときは救急車を呼びます